

# SILK NETWORK

シルク通信 No.3

## シルクロード・ネットワーク



シルクロード・  
ネットワーク協議会  
2024年1月発行



神戸港クルーズ船「コンツェルト」の前で。神戸フォーラム2023(2023年2月25日)

## 「シルクロード・ネットワーク 横浜フォーラム2023」 開催に向けて

公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事

米山 淳一 (シルクロード・ネットワーク協議会事務局長)

シルクロード・ネットワーク協議会が設立されたのは約10年前の2015年3月です。絹文化の足跡を後世に伝え残すことを目的に、絹文化を地域活性化に活かすための手立てを多くの地域と連携し、さぐっていくための活動組織として設立しました。

設立以来、新庄市、福島市、鶴岡市、南砺市、神戸市と過去6回フォーラムを開催してまいりましたが、今回、第1回目の開催地である横浜に戻り、第7回を開催いたします。

今日の横浜の発展は、世界に向けた絹貿易で稼いだ原資に支えられ、絹産業によって築きあげられた建造物をはじめとする絹遺産が多く残されていますが、近年の都市開発の中で、この歴史が忘れかけられているのが現状です。

昭和63年(1988)以来、横浜の歴史をいかしたまちづくりを横浜市都市デザイン室と両輪で開始し、微力ながら歴史的建造物などの登録、認定に力を注いでいるにも関わらず、横浜

では、絹遺産が失われているのです。例えば、近年では三井物産横浜支店の赤煉瓦造りの倉庫(元日東倉庫)や帝蚕倉庫などの絹関連遺産である歴史的建造物が次々に取り壊され、横浜で絹遺産関連の歴史的資産に出会うことが難しくなってきました。それでも三溪園をはじめ貿易商の住居である山手西洋館ほかまだまだ多くの歴史的資産が保全されていますが、楽観視してはいけません。

そこで、世界に冠たる横浜の絹遺産に再びスポットを当てる意味も含め、また絹遺産を横浜の歴史を生かしたまちづくりに活用する新たな仕組みづくり、さらに将来にわたり全国の絹文化に関わる皆さんとのより強固なネットワーク活動の推進に向けた足固めとして横浜フォーラムを開催したいと思います。多くの皆さまの参加と叡智をよろしく願い申し上げます。

# シルクロードでつなぐ街と人 『絹遺産の継承と活用の道を探る』

## 開催報告

### ●開催日時

- ・開催期日／令和5年2月25日(土)、26日(日)
- ・開催場所／25日 見学会：神戸市内 26日 フォーラム：KIITO (デザイン・クリエイティブセンター神戸) 3階
- ・参加者数／見学会：27名 フォーラム：45名(内、講師5名、事例報告者2名)

### ●実施プログラム

#### ▶2月25日(土) 見学会

- 12:40～13:00 KIITO集合
- 13:10～13:40 KIITO見学
- 13:40～14:10 港湾地区見学(税関～倉庫群～再開発事業)
- 14:10～14:50 神戸市立博物館見学(1F常設展示)
- 14:50～16:10 旧居留地～海岸通見学(15番館ほか～南京町～乙仲通り～神戸港)
- 16:30～19:00 神戸港クルーズ&交流会

#### ▶2月26日(日)「シルクロード・ネットワーク・神戸フォーラム2022

- 9:40 受付・開場(KIITO)
- フォーラム開会 10:00～10:10
- 米山淳一(公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事・RAC理事)
- 基調講演 10:10～12:30
- ・「歴史まちづくりの可能性」  
森井康裕氏(国土交通省都市局公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室課長補佐)
- ・「伝統的建造物群制度を活かしたまちづくり」  
大石崇史氏(文化庁文化財第二課伝統的建造物群部門文化財調査官)
- ・「神戸絹の道『養蚕秘録』を訪ねて」  
次六尚子氏(神戸ファッション美術館学芸員)
- ・「1938・神戸港」—油彩画を調べてみたら、生糸貿易・博覧会などが—  
中村善則氏(元・神戸市博物館学芸課長)
- 昼食 12:30～13:20
- 基調講演 13:20～15:00
- ・「未来を紡ぐカイコ」  
鈴木健夫氏(シスメックス株式会社学術研究部)
- 基調報告
- ・「養父市における養蚕関連施設の活用」  
谷本進氏(養父市教育委員会歴史文化財課)
- 事例報告
- ・「地域の絹遺産と活用・これから」  
報告者：川越市・日野市・高知県奈半利町藤村製絲
- 閉会・総括 15:00～15:10
- 後藤 治(公益社団法人横浜歴史資産調査会理事・RAC理事)

### ●開催風景

#### ◆見学会

会場のKIITO(デザイン・クリエイティブセンター神戸)は旧神戸生糸検査所である。横浜が関東大震災の壊滅的被害を受けたことを受け、大正12(1923)年、元神戸税関監視所を臨時の検査所庁舎に於て、神戸市立生糸検査所として業務を開始した。背景には、関西でも関東に比肩する程度に蚕糸業が成長したこともあるように



KIITOの外観

ある。現存する旧神戸生糸検査所は、清水栄二設計の新庁舎(現旧館)を昭和2(1927)年に完成させ、昭和7(1932)年に本館東側に新館が置塩建築設計事務所の設計で増築されたものである。25日の見学会は、KIITO(旧生糸検査所)2階に展示してある生糸検査機器の宮垣貴美代氏(元生糸検査所職員)の解説による見学から始まった。

市内見学は、案内を神戸市役所の浜田有司氏、元文化財課の千種浩及び都市コンサルタントの山本俊貞氏にお願いし、2班にわかれて行った。生糸検査所を出て、脇の通路状の空き地は、かつて第1～4突堤(棧橋)までの引込線の跡である。見学路左手は神戸港で突堤に付属した昭和初期の大型倉庫が建ち並ぶ地域である。そこから第1,2突堤部分の再開発地域に向かい、屋上デッキからかつて貿易船で賑わった神戸港の現在を望んだ。港の右手にあった旧万国波止場、中央突堤は一体となってメリケンパークとなり中央突堤先端にはオリエンタルホテルが出来ている。次に北に上り旧居留地にある神戸市立博物館に行き、常設展示を見学。

居留地は、昭和50年代頃から地域内にある近代洋風建築物や歴史的景観が見直され、歴史遺産を活かした現代的で魅力的な街に変わってきた。次に南京町を抜けて乙仲通へ。「乙仲」とは海運貨物取扱業者のことで海外から荷物を積んだ船が来た際に貿易手続きや積み下ろし業務などを企業に代わって行う業者である。この海運貨物取扱業者が多く集まっていた東西約800メートルの通りを「乙仲通」として平成20年に神戸市の道路の愛称に認定された。通りは、かつての海運業で栄えた面影が残り、歴史的建造物を活用したお洒落な店が建ち並び若者達の賑わいが生まれている。「乙仲通」から、かつて東洋のウォール街と呼ばれた海岸通りに出て交流会の会場であるクルーズ船へ向かった。神戸の発展の歴史と新しく生まれ変わる現在の姿を見る見学会であった。

#### ◆フォーラム

国交省の「歴史まちづくり法(以下歴まち法)」の運用担当者である森井康裕氏の講演は、歴まち法の具体的な活用事例から、その活用方法を示した。法の目的は、歴史的風致の維持・向上を図るためのまちづくりを推進する地域の取組を国が積極的に支援することにより、個性豊かな地域社会の実現を図り、都市の健全な発展・文化の向上に寄与することにあるとのこと。また文化庁の大石崇史氏は「伝統的建造物群制度を活かしたまちづくり」のテーマで、「伝統的建造物群保存地区(以下伝建地区)の「これまで」と「これから」について話された。以上、国の取組みを学んだのちは、神戸



KIITOの展示物見学



KIITO建物脇の引込線跡



基調講演、次六尚子氏



基調講演、中村善則氏



新港地区



旧神戸居留地十五番邸



基調講演、鈴木健夫氏



基調講演、谷本 進氏

からの絹、生糸貿易、カイコの産業利用などの「絹」に関わる興味深い講演が続いた。

次六尚子氏から「神戸絹の道『養蚕秘録』を訪ねて」をテーマに神戸の絹の歴史からJR神戸線、JR播但線が結ぶシルクロード(絹の道)と現代の絹文化の継承について話された。次六さんは神戸ファッション美術館学芸員である。神戸ファッション美術館は1997年(平成9)開館した日本初のファッション(衣食住遊)をテーマにした博物館である。神戸地区の報告では、北野地区の明治36年(1903)の地籍図の中に外国人貸与地と共に桑畑が有ることを示され、神戸でも養蚕が行われていた事を紹介された。また、関東大震災後、神戸から生糸輸出が始まる事が契機になったと思われる、大正14年(1925)本邦最初の試み「日本絹業博覧会」が華やかに開催され、神戸が横浜と同じくシルクロードの最下流である事を示された。

元・神戸市博物館学芸課長の中村善則氏の基調講演は、1枚の油絵画「1938・神戸港」をもとに、生糸貿易・博覧会などについて話された。中村氏は、油彩画というのは旧外国人居留地内にあった「神戸生糸取引所」から、平成9年(1997)に博物館へ寄贈されたもので、もともとは昭和26年(1951)に生糸取引所が再興されたときに旭シルクという会社から取引所に寄贈されたと伝えられていたものである。昭和13年(1938)に「y.kojima」という画家によって描かれたことはわかっているが、画家の経歴などは一切知られていない。画題は伝わっていなかったが、博物館学芸員が「神戸港眺望」と命名したそうである。絵には殷賑を極めた神戸港の様子が描かれ、沖合に繫留された数多くの船舶、ひときわ大きく描かれた「ふじ丸」、数えきれないほどの艇、パイロットボート。絵は海岸通5番にある現在の商船三井ビルの5階あたりから描かれたものと推定されている。そこには小田萬蔵が社長の旭シルクと言う会社が、大正12年(1923)から昭和38年(1963)ごろまで事務所を置いていた。小田は戦後生糸取引所が再開された時の初代理事長を務めている。おそらくは小田がこの油彩画を描かせ、自社の一室に掲げていたのではないだろうかと話された。講演では、大正から昭和に掛けての新聞記事をしめされ、生糸貿易で栄えた神戸の様子を示された。また、開催が最初で最後となった「日本絹業博覧会」の賑わい、絵にも描かれている台湾基隆航路のお話、旧居留地の賑わいなど現代神戸の礎に絹文化がその基底あるという興味深いお話であった。

基調講演の最後は、鈴木健夫氏による「未来を紡ぐカイコ」のお話である。鈴木氏は、シスメックス(株)学術研究部でカイコの産業利用の研究をされている。現在、生糸産業は衰退し産業とはなり得ないが、新しい分野として医療等新たな分野が開かれ、飼育も人工飼料などにより養蚕は農業から工業に転換が可能となっている。カイコの安定飼育技術が新たな産業利用において、極めて重要な基盤となっているとのことである。カイコの新たな産業で実用化されているものに手術用縫合糸、化粧品用基材、健康食品、有用タンパク質の生産による医薬品や診断用検査試薬、冬

虫夏草の栽培等があり、開発途上には、人工血管、再生医療用基材、疾患モデル動物としての活用等多岐にわたるようである。

カイコは何千年もの昔から人々の役に立ってきた昆虫であり、現代においても、新たな利用価値が加わり、人々の健康で豊かな生活をこれからも支えてくれることが期待され、まさに、カイコが紡ぐ糸は未来へとつながっており、カイコに関わってきた人々の歴史がその礎となっているという夢のあるお話であった。

基調報告としては、兵庫県養父市教育委員会の谷本進氏が「養父市における養蚕関連施設の活用」について話された。養父市は兵庫県北部鳥取県との県境にあり、郡是製糸(株)の城下町として発展、市内に八鹿工場と養父工場がある。また、養父は『養蚕秘録』を著した上垣守国の生誕地である。『養蚕秘録』はシーボルトがオランダに持ち帰り、嘉永元年(1848)フランスで出版され、その後イタリアでも出版され、日本の技術輸出第一号と言われているとのこと。三階建養蚕民家の多くは、茅葺民家を養蚕の拡大に伴って上階を増築したもので市内で495棟が確認されている。また養父市大屋町大杉地区は重伝建地区に選定されている。平成26年(2014)富岡製糸場が世界遺産登録となったことで、養父市の養蚕製糸、養蚕教育に関わる遺産が地元で認識され、蚕都養父市として保存活用の機運が盛り上がり、絹産業遺産の活用を通じて新しい地域文化の創造を目指しているとのことであった。

各地の事例報告の最初は川越から藤井美登利氏が絹文化の継承ときもの普及を目指すフォーラム「川越・前橋・横浜 絹のものがたりフォーラム」開催の報告があった。川越と前橋は幕末松平大和守家が治めていた藩であり、横浜は川越や前橋の生糸で結ばれた絹文化ネットワークの最下流である。

日野市からは日野市ふるさと文化財課の秦哲子氏が「旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室」の保存修理と活用について報告があった。蚕室はRC造1階(蚕室)の上へ木造の越屋根付の小屋を掛けた構造である。試験場は、昭和初期、原蚕種製造のため桑園と研究室、蚕室等の施設が整備された。

最後に高知県奈半利町の藤村製絲株式会社の安光健一氏から報告があった。現在は操業していないが、西藏(国登録有形文化財)を資料館として保存しているとのことである。

以上で基調講演、事例報告は終了した。最後は後藤治の「これからフォーラムを開催しなければならない場所が、まだ数多くあることが判明した。」との感想でフォーラムは終了した。

私たちは、各地の絹遺産を地域の歴史、伝統文化、継承すべき文化遺産として、地域活性化の切り札として活かす手だてを、地域間交流を通じて知恵を出し合い、創り上げることを目的としている。このフォーラムの特徴である各地の事例報告からは、多様な絹文化を知ることが出来た。

また、講師の講演とアドバイスから、絹遺産・歴史的建造物等の文化財を地域づくりの核として活かす市民・行政一体となった新たな手だてが、具体的な形で見えてきた。シルクロード・ネットワークの新たな一歩を踏み出したフォーラムであった。



# シルクロードでつなぐ街と人

— 絹遺産は私たちの宝 —

## 開催のお知らせ

### 1. 日時：令和6年3月16日(土)・17日(日)

- 見学会／16日(土) 12:40～13:00 集合
- フォーラム／17日(日) 13:00～16:30
- 会場／横浜みなと博物館 第1・2会議室  
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-1-1  
TEL.045-221-0280

### 2. スケジュール

- 見学会／3月16日(土)  
12:40～13:00 みなとみらい線元町・中華街駅 改札集合港のみえる丘公園／イギリス館／山手111番館／山手234番館／エリスマン邸／ペーリックホールなど  
17:00～交流会(中華街) 菜香新館

※ 宿泊は各自ご都合に合わせて手配をお願いします。



史跡・英一番館跡

- フォーラム／3月17日(日)  
12:40 受付・開場  
13:00 開会  
13:15 基調講演  
『横浜の繁栄を支えた絹貿易』  
横浜開港資料館館長 西川武臣氏  
『世界文化遺産「白川郷合掌造り民家」は養蚕民家』  
白川郷田島家養蚕展示館館長 三島敏樹氏



横浜市イギリス館

14:30 各地からの活動報告とシンポジウム(登壇予定)  
新庄市・鶴岡市・日野市・福島市・前橋市・南牧村・神戸市・  
南砺市・川越市・千曲市・八王子市・横浜市など  
コーディネーター/後藤 治(当公益社団理事)

- 問合せ・参加申込はメールでお願いします。

[yh-info@yokohama-heritage.or.jp](mailto:yh-info@yokohama-heritage.or.jp)

## 絹遺産のイメージ

- 蚕種、養蚕、製糸に直接かかわる建造物
- 繭、生糸の販売、流通にかかわる建造物
- 器械、器具、蚕種、養蚕、製糸の技術
- 製品(全国各地の絹織物)
- 上記にかかわる人物の物語、事跡、遺跡、遺物
- 運送・交通(運送業、鉄道、駅舎)
- 集落(養蚕集落、絹産地でうろった町並)
- 信仰(蚕影神社、碑など)
- 絹産産で潤った飲食街、料亭、娯楽・厚生施設など
- 文物(養蚕指導書、護符など)
- 習俗(養蚕製糸にかかわるお祭りなど)

絹貿易で財をなした中居屋重兵衛店跡の解説板



■シルク通信 No.3 2024年1月発行  
 ■編集・発行／シルクロード・ネットワーク協議会 代表幹事団体・公益社団法人横浜歴史資産調査会  
 ■事務局／〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405  
 TEL・FAX／045-651-1730 MAIL／[yh-info@yokohama-heritage.or.jp](mailto:yh-info@yokohama-heritage.or.jp)  
 ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp/>